

にも「⑨木津」「⑩福島」「⑪天王寺」「⑫榎並」
(以上「今宮町誌」より)「⑬南浜」「⑭岩崎」「⑮

安部野」「⑯安治川」「⑰大仁」「⑱野江」以上「郷

土研究 上方」より)と合計十八カ所の墓が七墓

として紹介されている。他にも文献を渉漁すれば、その数はさらに増えていくのではないだろうか。

要するに盂蘭盆会に大阪市中界隈にあつた墓を「どこでもいい」ので、七カ所巡れば大阪七墓巡りとして結願したと筆者は推測している。

ルール(?)としては、非常にゆるやかで、おらかな墓参りといえる。

また七墓参りをすると「自分の葬式の時に晴れる」というご利益があつたという。筆者など

は自分はすでに死んでしまっているので、自分

の葬式が晴れていようが雨であろうがどちらで

も構わないようと思うが、とても慎ましい(?)

ご利益ではないだろうか。

ちなみに堺の民話集『わがまちの今・むかし南八下の民話』に「堺の七墓巡り」の記述があり、

それによると「嫁さんが七墓巡りを七年間する

ことで元気に暮らせる」といったご利益があつたと伝わっている。「願い事が成就する」とか

「良縁に恵まれる」といった現世利益と違つて、

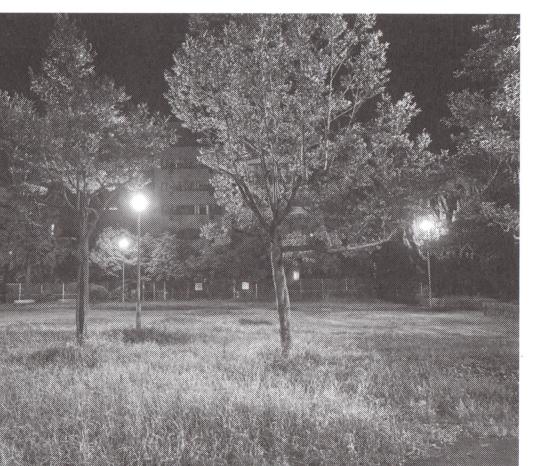
「自分の葬式が晴れる」という微妙なご利益(?)もユニークに感じている。

二、七墓を巡っていた無縁の者たち



小橋墓地跡・梅川忠兵衛比翼塚 (写真提供: 陸奥氏)

参加者に関して何か記述はないかと、前述の『郷土研究 上方』の「上方探墓號」を調べてみると、「今は途絶えたが、貞享、元禄の昔より明治初期に至るまで久しい間、大阪では盂蘭盆になると心ある人々は七墓巡りと称して、諸の集まり」によって実施された風習といえる。



小橋墓地跡・東高津公園 (写真提供: 陸奥氏)

ものである」とあつた。

つまり、無縁仏を供養する人々というのは、仏教心に厚い、慈悲の精神を持つた「心ある人々」ということだろう。確かに現代の墓参りは基本的には近親者や知人、友人といった自分と何かしらの関係がある「有縁の死者」を墓参りするものだから、わざわざ「無縁の死者」を墓参りするのは、「心ある人々」のように感じられなくもない。

ところが「無縁者の集まり」なだけに、ちゃんとしたお参りの統制(?)などもとれなかつたようで、延宝八(一六八〇)年刊行の『難波

鑑』(一無軒道治著)の「法善寺墓参」には「いつのころよりか、この寺の墓参りとて、七月一日より、その月のくるるまで、毎夕大坂の男女、老若貴賤によらず、この寺に詣できたるありさま(中略)わかき人々は色にそみ、あるひは酒宴などを催しがれめき遊ぶ人がちにして、あらひはいきほひ猛にののしり、はては喧嘩して法場をけがす人あり(中略)かかることをしても物詣と、いふべきや、をそるべくつつしむべし」と非難する記述が残されている。

「法善寺墓参」なので、これは七墓のうちの一つである千日墓地界隈の光景だろと思われるが、若者たちは遊女と戯れたり、酒宴で羽目を外して墓場で喧嘩をするなど、乱痴気騒ぎもあったという。どう

も七墓巡りをやつていたのは、宗教心に突き動かされた、殊勝な「心ある人々」だけではなかつたことがわかる。

また七墓参りの参加者は、鐘や太鼓を鳴らして歌舞音



葭原墓地跡・沖向地蔵尊 (写真提供: 陸奥氏)

国産材の国内加工のみお取り扱い

こころ安らぐ
ふるさと
故郷の石

岩手県/姫神石
宮城県/磐梯みかけ、吾妻みかけ(中目)
福島県/中山石、あだたら御影、深山ふぶき、
滝根みかけ、浮金石、十万石青みかけ、
大倉みかけ、芝山石
茨城県/真壁小目、真壁中目、八郷みかけ、
稻田石、羽黒青糠目石
神奈川県/本小松石

岡山県/北木石、万成石
香川県/庵治石
愛媛県/大島石
佐賀県/天山石

NINON MEISEKI
株式会社 日本銘石

〒963-4204 福島県田村市船引町堀越字中大門12-1
TEL. (0247)85-3633 FAX. (0247)85-2617
E-mail info@nihonmeiseki.jp